

世界旅打ち気分

●第50回・アメリカの障害レース開催

須田鷹雄



レースはちゃんと行われている



グッズ屋台は場内に何か所かある



4万円駐車スペースの車・テントと
レースに向かう馬

<https://www.instagram.com/sudatatakaoshoten/>

前号に続き、9月末から10月にかけて行つてきた北米の競馬場をご紹介したい。今回はアメリカの競馬場から、かなりレアな競馬場を紹介する。

その名は「オックスフィールド競馬場」。この競馬場は、障害レース専門の競馬場だ。

アメリカにも障害レースはある。かつては「ブリーダーズカップステークス」と称するレースがあつた(BC)開催場とは全く別な場所でやつていた。いまは別なレース名になっている(し、中山グランドジャンプにアメリカ調教馬が来た)こともあつた。

ただ、である。アメリカにおいて障害レースというのは一般的な認知度があるものではない。特殊な体制でレースが行われている。以前サラトガの回で少し紹介したかもしれないが、今回は詳しく説明させていただきたい。

アメリカにおいて、日本と同様に障害レースを観戦し、かつ馬券を買えるという機会はかなり限られている。筆者の知る限りサラトガとベルモントくらいではないかと思う。

では馬たちは他にどんな感じだったのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、今回の観戦において、ラツキだつたのはこの「4万円払わなかつた」という一点だけだつた。というのも、当日がひどい雨で、傘を持つていたもののそれでもずぶ濡れ、足元はぐちゃぐちゃということになつたのである。

当然、「ピクニック日和」というわけでもない。スポンサー企業のしづかりしたテントで飲食を楽しんでいた。

高いが、他の障害場ホームページでは100ドル超えの入場料も目にしていたので、素直に40+20ドルを払つた。

そして後から判明したのだが、275ドルというのは指定席ではなく、内馬場の駐車スペースなのだ(筆者のような20ドルだと競馬場外に停める)。そこに車を停め、テント立ててピクニックのようになると、内馬場の駐車スペースの区画がひとつあたり275ドルだつたのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、今回の観戦において、ラツキだつたのはこの「4万円払わなかつた」という一点だけだつた。というのも、当日がひどい雨で、傘を持つていたもののそれでもずぶ濡れ、足元はぐちゃぐちゃなどいうことになつたのである。

かけた。その名は「オックスフィールド競馬場」。この競馬場は、障害レース専門の競馬場だ。

アメリカにも障害レースはある。かつては「ブリーダーズカップステークス」と称するレースがあつた(BC)開催場とは全く別な場所でやつていた。いまは別なレース名になっている(し、中山グランドジャンプにアメリカ調教馬が来た)こともあつた。

ただ、である。アメリカにおいて障害レースというのは一般的な認知度があるものではない。特殊な体制でレースが行われている。以前サラトガの回で少し紹介したかもしれないが、今回は詳しく説明させていただきたい。

アメリカにおいて、日本と同様に障害レースを観戦し、かつ馬券を買えるという機会はかなり限られている。筆者の知る限りサラトガとベルモントくらいではないかと思う。

では馬たちは他にどんな感じだったのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、今回の観戦において、ラツキだつたのはこの「4万円払わなかつた」という一点だけだつた。というのも、当日がひどい雨で、傘を持つていたもののそれでもずぶ濡れ、足元はぐちゃぐちゃなどいうことになつたのである。

当然、「ピクニック日和」というわけでもない。スポンサー企業のしづかりしたテントで飲食を楽しんでいた。

る人たちまだいが、4万円では100ドル超えの入場料も目にしていたので、素直に40+20ドルを払つた。

そして後から判明したのだが、275ドルというのは指定席ではなく、内馬場の駐車スペースなのだ(筆者のような20ドルだと競馬場外に停める)。そこに車を停め、テント立ててピクニックのようになると、内馬場の駐車スペースの区画がひとつあたり275ドルだつたのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、今回の観戦において、ラツキだつたのはこの「4万円払わなかつた」という一点だけだつた。というのも、当日がひどい雨で、傘を持つていたもののそれでもずぶ濡れ、足元はぐちゃぐちゃなどいうことになつたのである。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

る人たちまだいが、4万円では100ドル超えの入場料も目にしていたので、素直に40+20ドルを払つた。

そして後から判明したのだが、275ドルというのは指定席ではなく、内馬場の駐車スペースなのだ(筆者のような20ドルだと競馬場外に停める)。そこに車を停め、テント立ててピクニックのようになると、内馬場の駐車スペースの区画がひとつあたり275ドルだつたのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、今回の観戦において、ラツキだつたのはこの「4万円払わなかつた」という一点だけだつた。というのも、当日がひどい雨で、傘を持つていたもののそれでもずぶ濡れ、足元はぐちゃぐちゃなどいうことになつたのである。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

る人たちまだいが、4万円では100ドル超えの入場料も目にしていたので、素直に40+20ドルを払つた。

そして後から判明したのだが、275ドルというのは指定席ではなく、内馬場の駐車スペースなのだ(筆者のような20ドルだと競馬場外に停める)。そこに車を停め、テント立ててピクニックのようになると、内馬場の駐車スペースの区画がひとつあたり275ドルだつたのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、今回の観戦において、ラツキだつたのはこの「4万円払わなかつた」という一点だけだつた。というのも、当日がひどい雨で、傘を持つていたもののそれでもずぶ濡れ、足元はぐちゃぐちゃなどいうことになつたのである。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

る人たちまだいが、4万円では100ドル超えの入場料も目にしていたので、素直に40+20ドルを払つた。

そして後から判明したのだが、275ドルというのは指定席ではなく、内馬場の駐車スペースなのだ(筆者のような20ドルだと競馬場外に停める)。そこに車を停め、テント立ててピクニックのようになると、内馬場の駐車スペースの区画がひとつあたり275ドルだつたのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、である。アメリカにおいて障害レースというのは一般的な認知度があるものではない。特殊な体制でレースが行われている。以前サラトガの回で少し紹介したかもしれないが、今回は詳しく説明させていただきたい。

アメリカにおいて、日本と同様に障害レースを観戦し、かつ馬券を買えるという機会はかなり限られている。筆者の知る限りサラトガとベルモントくらいではないかと思う。

では馬たちは他にどんな感じだったのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、である。アメリカにおいて障害レースというのは一般的な認知度があるものではない。特殊な体制でレースが行われている。以前サラトガの回で少し紹介したかもしれないが、今回は詳しく説明させていただきたい。

アメリカにおいて、日本と同様に障害レースを観戦し、かつ馬券を買えるという機会はかなり限られている。筆者の知る限りサラトガとベルモントくらいではないかと思う。

る人たちまだいが、4万円では100ドル超えの入場料も目にしていたので、素直に40+20ドルを払つた。

そして後から判明したのだが、275ドルというのは指定席ではなく、内馬場の駐車スペースなのだ(筆者のような20ドルだと競馬場外に停める)。そこに車を停め、テント立ててピクニックのようになると、内馬場の駐車スペースの区画がひとつあたり275ドルだつたのだ。

もちろん筆者のような一人客がそのスペースを買う必要はない。チケットの全てのスペースが車で埋まっているわけではないので観戦できる場所もある。指定席と間違えて4万円払わなくてよかつた……という話である。

ただ、である。アメリカにおいて障害レースというのは一般的な認知度があるものではない。特殊な体制でレースが行われている。以前サラトガの回で少し紹介したかもしれないが、今回は詳しく説明させていただきたい。

アメリカにおいて、日本と同様に障害レースを観戦し、かつ馬券を買えるという機会はかなり限られている。筆者の知る限りサラトガとベルモントくらいではないかと思う。

ただ、である。アメリカにおいて障害レースというのは一般的な認知度があるものではない。特殊な体制でレースが行われている。以前サラトガの回で少し紹介したかもしれないが、今回は詳しく説明させていただきたい。

アメリカにおいて、日本と同様に障害レースを観戦し、かつ馬券を買えるという機会はかなり限られている。筆者の知る限りサラトガとベルモントくらいではないかと思う。